

研修会等事業報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成30年11月6日 提出

1. 研修概要

会派名	自民党おおさき市民会議
会員名	早坂憂
活動項目	地方議員研究会「議員が知っておくべき財政の話」

2. 研修内容

摘要	<p>日本各地から地方議員が大勢集まり、地方議員研究会主催による「議員が知っておくべき財政の話」と題して研修が行われた。</p> <p>講師は行政職員OB。財政課長、財政部長を歴任し、長年にわたって財政政策に携わってきたスペシャリストとして、また職員の目線から議員に何を望むか等の話があった。</p> <p>今回のセミナーは基礎編ということで、財政の基本的な知識や用語の解説からはじまった。午前の部は財務の意義や内容、それを取り巻く組織(議会・首長・出納機関・監査委員等)についての解説についてや、予算の種類や内容について、そして歳入・歳出、科目別予算のあらましについてと決算の分析と財政の健全化についての講義だった。午後の部は地方交付税制度についての徹底解説と地方債の役割や制度、形態に関する説明等が行われた。</p> <p>その中でも特に興味深かった話は3点あった。</p> <ul style="list-style-type: none">・1つ目は地方交付税について。 地方交付税とは、財源が不足する団体に対し、一定の方法によって国から交付されるお金であり、用途は地方団体の判断に任せられ、国が用途を限定したり、条件を付けたりすることが禁止されているというものだった。そのため用途選択の自由度が高い財源であり、議員から活用を後押しするような政策提言が重要である。との内容だった。・2つ目は決算カードを利用した分析の仕方について。 各参加者の自治体の決算カードが配られ、<ol style="list-style-type: none">① 収支が均衡しているか② 財政に弾力性があるか③ 長期的に見て安定しているかをどの様にチェックするかが説明された。①は形式収支・実質収支・単年度収支・実質単年度収支によって判断すること。②は経常収支比率によって財源の割合を判断すること。③は実質公債費比率によって判断することが解説された。数字で見れば大崎市の財政は決して悪い方ではないようだったが、安心できる状態でもないようだった。・3つ目は一般質問の内容をいかに一般の職員に知ってもらうかについて。 議会に出席をしている担当の部長・課長には議員から出された一般質問の内容が伝わっているが、その部課に所属している一般職員への周知については深く行き届いていない場合が多く、議員と職員の意思疎通ができていないケースが多いとの話だった。予算の質疑については義務的経費かどうか、予算編成方針との合致はどうか、議会の要望事項にあるか、住民からの要望は多いのか、財源についてはどうなっているのかをしっかりと踏まえること。決算の質疑については積算の根拠について、場合によっては資料の作成を依頼すること等も視野に入れ、成果がしっかりと見える内容になっているかを見逃さない事などの内容だった。 <p>一度の講義で全ての内容を飲み込む事が難しい場面も多くあったが、今回学んだことや生まれたひらめきを大切に、今後の議会に活かしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">愛知県名古屋市 平成30年10月10日実施</p>
----	---

以上